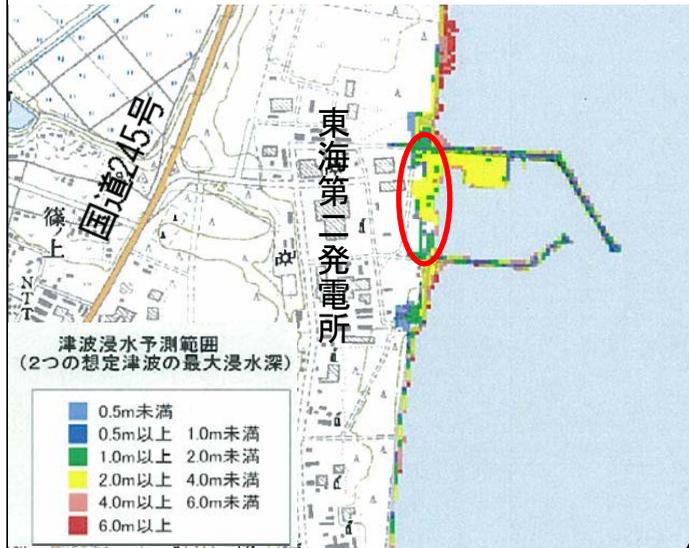


津波浸水想定区域図により、**危機を回避**

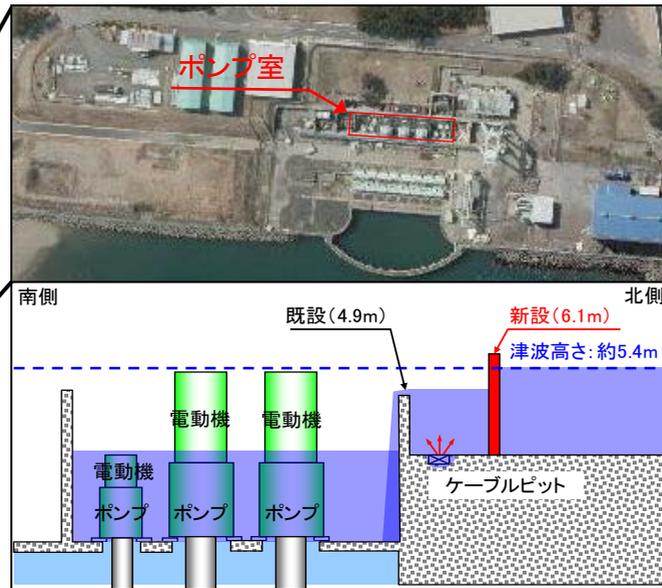
— 東海村の原子力発電所が6.1mの防護壁を設置 —

茨城沿岸津波浸水想定区域図(H19年公表)



- 平成16年12月に発生したスマトラ島沖インド洋大津波を契機として、**津波被害の軽減を図るために**茨城沿岸津波浸水想定区域図を作成、平成19年10月に公表。
- 日本原子力発電(株)は、県の浸水想定に基づき、東海第二発電所への津波に対して、高さ4.9mの防護壁の外側に**6.1mの防護壁を設置**。東日本大震災では、東海第二発電所に**最大5.4mの津波**が襲来したが、一部ポンプ室に浸水したものの、その防護壁により**津波に対する危機を回避**。

※ 現在、東日本大震災における津波被害を契機として、浸水想定区域図を見直中。



「東北地方太平洋沖地震発生後の東海第二発電所の状況及び安全対策について日本原子力発電株式会社平成23年6月」より

平成22年9月に完成した高さ6.1mの防護壁



写真出典:朝日新聞(平成23年4月20日web記事より)